平 群 町 議 会
決 算 審 査 特 別 委 員 会 記 録

招 集 年 月 日	令 和 6 年 9 月 6 日		
招 集 の 場 所	平 群 町 議 会 議 場		
開 会 (開 議)	9 月 6 日 午 前 9 時 0 分 宣 告 (第 2 日)		
出 席 委 員	岩 崎 真 滋 長 良 俊 一 山 田 仁 樹	森 田 勝 植 田 い ず み 馬 本 隆 夫	
欠 席 委 員	な し		
会 議 事 件 説 明 の た め 出 席 し た 者 の 職 氏 名	町 長 副 町 長 教 育 長 総 務 部 長 住 民 福 祉 部 長 事 業 部 長 教 育 部 長 政 策 推 進 課 長 税 務 課 長 健 康 保 険 課 長 福 祉 課 長 上 下 水 道 課 長 教 育 委 員 会 総 務 課 長 健 康 保 険 課 参 事 政 策 推 進 課 主 幹 税 務 課 主 幹 健 康 保 険 課 主 幹 健 康 保 険 課 主 幹 福 祉 課 主 幹 上 下 水 道 課 主 幹 上 下 水 道 課 主 幹 教 育 委 員 会 総 務 課 主 幹 学 校 給 食 セ ン タ ー 所 長	西 脇 洋 貴 植 田 充 彦 上 田 薫 山 崎 孔 史 松 本 光 弘 西 岡 勝 三 川 西 貴 通 浦 井 久 嘉 勝 山 修 志 東 川 美 和 浅 井 実 千 代 田 中 伸 明 酒 井 智 志 石 見 幹 子 仲 本 剛 西 岡 亨 巽 知 子 藤 澤 愛 香 藤 井 純 郎 定 井 康 人 北 村 隆 行 向 山 晃 弘 川 端 康 嗣	
職 務 の た め 出 席 し た 者 の 職 氏 名	議 会 事 務 局 主 幹 主 査	浅 井 利 育 竹 村 恵	
付 託 事 件	5 日 に 同 じ		

再 開 （午前 9時00分）

○委員長（岩崎真滋）

皆さん、おはようございます。昨日に引き続きお疲れさまです。

ただいまの出席委員は6名で、定足数に達しておりますので、これより決算審査特別委員会を再開いたします。

それでは、直ちに会議を開きます。

（ブー）

○委員長（岩崎真滋）

本日は各特別会計の歳入歳出決算及び水道事業会計決算並びに下水道事業会計決算審査を順次行います。

それでは、認定第2号 令和5年度平群町住宅新築資金等貸付事業特別会計歳入歳出決算の認定についてを議題といたします。

税務課長より発言を求められておりますので、発言を許可いたします。勝山税務課長。

○税務課長

貴重なお時間を頂きまして、事前にお配りしております決算審査特別委員会の事前提出資料の中で資料40、ページ数でいいますと44ページなんですけども、補足説明と修正をさせていただけたらと思います。

こちらのほうの表なんですけども、令和6年分の収納分が含まれてるということでの表になっております。決算時の数字と若干違うということで、その辺りの補足をさせていただきます。一応その分について実際、決算時の数字はどうであるかっていうことで数字を読み上げさせてもらいたいと思いますので、ちょっとその辺りをお願いしたいと思います。この表の中の5年以内、3人のとこの金額、これが564万7,000円となっておりますけども、569万4,000円が決算時の数字となっております。あと10年以内の1人、これが金額283万5,000円となっておりますけども、287万9,000円が決算時の数字です。あと10年以上が5人、こちらのほうが3,377万1,000円となっておりますけども、3,378万9,000円が決算時の数字です。これを合わせてもらいますと合計6,658万2,000円という形になっておりますので、ちょっとその辺りをすみませんが、補足説明と修正とさせていただきますので、よろしく申し上げます。

○委員長（岩崎真滋）

初日の本会議において議案の説明を受けておりますので、説明は省略させていただきます。また、資料についても、配付しております資料については説明を

省略させていただきます。

これより本案に対する質疑に入ります。長良委員。

○委員（長良俊一）

おはようございます。引き続きよろしくお願ひいたします。今、課長のほうから御説明いただいたんですけども、この資料について聞こうと思ったしよっぱなに、この数字が変わりましたんで、その全体について分かったんですけども、未収決算額の見込みの中でね、僕はこの9月議会で損切りと言うたら失礼ですけども、こうやって相続人不存在だとか5年以内、10年以内、10年以上と四つに分けていただけてますけれども、決算も未収だというような形で、今日は決算審査特別委員会ですので、これで未収やと、もう無理やというところを、次年度から以降どういうふうな形で処理していくつもりでおるのか、そういったところをお答え願えますか。

○委員長（岩崎真滋）

西岡税務課主幹。

○税務課主幹（西岡 亨）

お答えさせていただきます。

予定と申しますか、一応現在取り組んでいるところから御説明申し上げます。先ほどですね、ちょっと修正もさせていただいた資料の一番上ですね、相続人不存在って書いてあるところが御覧いただけるかと思ひます。ここはですね、相続人がおられない、あるいは相続人が意思の疎通ができない状態であるとかそういった方が含まれている人数でございます。これらの方につきましては、今後ですね、まだちょっと一部公表できない部分もあるんですが、競売なりの手続を進めていこうと考えているところでございます。そういったことによりましてですね、競売でもし落札等をされればですね、その一部のほうを住新のほう、もしくは住新のみならず税金の滞納のほうにも充当されてくるのかなというふうに思っております。

以上でございます。

○委員長（岩崎真滋）

長良委員。

○委員（長良俊一）

深掘りしてるようで申し訳ないんですけど、もう1回聞かせてください。この貸付け事業というのは平成9年から貸付け事業は廃止してると、こうやって書いてくれてる、概要にね。ということは、これから以降こういうふうなことは発生しない中で、年度は毎年変わっていく。ほんで、5年以内、10年以内、10年以上と、我々こうやって議会で議案を通してきてね、こうやって損切り

していくのも仕事の一つやと思う。相続人不存在は5年以内の案件ももしかして、この紙上は分からないから、含まれてるかも分からないけれども、これから以降、行政活動として10年以内、10年以上のものについてはしまいでいかないといけないけれども、5年以内のこの3件に対しても真摯に、申し訳ないけれども、ちょっとでも我々を助けてもらわんといかんと思うんで、取組として大事やと思うんで、これ、しつこく聞いているようで申し訳ないんですけども、この取組に対してなるべく、もう事業はお金がなかなか動かない実情なんで、ちゃっちゃつと言うたら怒られるけども、丁寧に最後まで完結していくような形で運んでもらいたい。来年度には決算の審査のときに、ここがちゃんときれいに終わってるように僕はお願したいんですけども、そこら辺はどういう形で進めていくべきか、お考えをお聞かせください。

○委員長（岩崎真滋）

西岡税務課主幹。

○税務課主幹（西岡 亨）

お答え申し上げます。今後のやり方といいますか、どのように事業を進めていくかというような御質問かと思えます。

これも以前にもちょっと回答したかも分かんないんですが、一応競売、公売、任意売却ですね、これらによってなお売れなかった場合とかに限ってはですね、約4分の3が補助金としてその不足分が充当されるということがありますので、それなりの要件に沿って補助金で賄えるような手法をですね、当然今後もしていかなあかんというふうに思っております。

以上でございます。

○委員長（岩崎真滋）

長良委員。

○委員（長良俊一）

しつこくて申し訳ない。僕はね、なぜそんな言い方をするかというと、いろんな各面で税金を預かせてもらって滞納してきた。1期、2期、3期、4期に集めたりするような税金の納め方がある中でね、1期目を払ってくれて、2期目が払えなくて督促状が出て、3期目にやっと払えたと、お金があつて。でも、2期目は遅れてると。3期は頂いてるけど、2期は頂いてないとかそういう事例があったと聞いたもので、僕は前に普通の家賃体系だったら、遅れる分から支払いしてもらうのが、やはり住宅を貸したり、いろんな賃貸っていうのは普通やと僕は思ってたんですよ。行政っていうのは、その期日期日ですうっとしたら、2期目が飛んで3期目をもうたことになってるような履歴になるというふうに1回話を聞かせてもらったときにびっくりした。やはり一つ一

つ、なぜしつこく言うかというたら5年以内、10年以内、10年以上の間に、残念ながら相続人不存在になってしまうケースだって人生はあるんだから、しっかりした形で徴収する義務が、また支払いしてもらおう立場として義理を果たしていくのに、しっかりした形でちゃんと、日が過ぎるごとに督促状を出してももらえないんだったら、こういうふうな形で議案を通してちゃんと決裁していく。そういうふうな形をしていただかないと、欠損が1年ごとにこうやって決算審査特別委員会にずうっと残ってるということだけではないようにしてやってください。どうぞよろしく申し上げます。

○委員長（岩崎真滋）

森田委員。

○委員（森田 勝）

今の滞納のことで、相続人不存在の方ですけども、嫌なことを私も常に言ってまして、2年前の一般質問で滞納をちゃんと取れよという話をしたと思うんですけども、住宅新築資金は私の手持ち資料を見ますと1,000万円ぐらい滞納が減っていると。それは努力されてるというふうには思ってるんですけどね、今この滞納、不納者の御自宅は住んでおられないんですね、もう。

○委員長（岩崎真滋）

西岡税務課主幹。

○税務課主幹（西岡 亨）

お答え申し上げます。

ここに相続人不存在って書いてあるところの物件につきましては、相続放棄をされておられる方も中にはいらっしゃいます。もう1人の方も先ほど申しました競売に現にかかっているお宅につきましては、誰も住んでおられない状況ということになっております。

以上でございます。

○委員長（岩崎真滋）

森田委員。

○委員（森田 勝）

それ、人数は分かりますでしょうか。

○委員長（岩崎真滋）

西岡税務課主幹。

○税務課主幹（西岡 亨）

今、相続人不存在の件数につきましては3名ということになっております。

○委員長（岩崎真滋）

森田委員。

○委員（森田 勝）

住んでおられないということだというふうに思うんですけどね、これの家屋の火災保険とかそういう担保できるものを何か講じておられるのでしょうか。燃えれば資産価値はゼロになるわけですけど、あるかどうかというのは私も分かりませんが、その辺のことをどのようにお考えになっているのか。

○委員長（岩崎真滋）

西岡税務課主幹。

○税務課主幹（西岡 亨）

現に1回ですね、裁判所を通じての競売手続を進めております。残りの2件、2名のお宅につきましても、まだ公表時期とかは、政策体系表にも書かせていただいたんですが、奈良県との合同公売、オークションのほうにかけるような手はずを進めております。

以上でございます。

○委員長（岩崎真滋）

森田委員。

○委員（森田 勝）

いやいや、家屋の保全をすることは所有者だと思うんですけどもね、滞納が残ってるわけでしょう。だから、減価償却してるのでほとんど価値がないと思うんですけども、その辺のことはどうなってるかということをお尋ねしたんですけども。県とかそういう話をしてるわけじゃないんですけど。

○委員長（岩崎真滋）

西岡税務課主幹。

○税務課主幹（西岡 亨）

申し訳ないです。お答えさせていただきます。

一応ですね、そういう条件をもろもろ含んでですね、例えばおうちの状態あるとか土地の価値とか、一定、不動産鑑定をいたしましてですね、それをいろんな条件を盛り込んだ上でオークションのほうにかけるということになっております。保全状況もしかりなんですけども、家の状態も含めてですね、鑑定をかけさせていただいて、相続財産管理人の申立てさせていただきまして、公売手続、競売手続に入っていくと、このような流れで進んでおります。委員おっしゃっていただいているように、例えば空き家の管理とかですね、原則的には相続人さんであるとか所有者の方に帰属されるわけなんですけども、片やこういう競売なりの手続に関しましては、そういうもろもろの条件を含んだ上でオークションに出していただいて、それでも売ればですね、そのお金の一部を充当させていただくというようなことになっておりますので、ちょっと説明にな

ってるかどうか分かんないんですが、そういうことで進めていってるということ
とでございます。

○委員長（岩崎真滋）

森田委員。

○委員（森田 勝）

主幹の言葉尻を捉えて悪いんですけどね、相続人不存在というふうに言っ
てる方は相続人がおるような発言があったじゃないですか。それはおかしいと思
いますが、それは言いませんけども、それで10年以上の滞納を完済されると
いうことは、いつから10年ですか、最高。

○委員長（岩崎真滋）

西岡税務課主幹。

○税務課主幹（西岡 亨）

最も長い滞納者の方っていうことでよろしいでしょうか。これも昨年の決算
審査特別委員会のほうでも回答させていただいたとおりですね、今の状況でい
けば100年以上かかる方がいらっしゃると、これが最長でございます。

発言する者あり

○税務課主幹（西岡 亨）

申し訳ございません。一番最古の方で昭和58年度からということになって
おります。

○委員長（岩崎真滋）

森田委員。

○委員（森田 勝）

58年度やから、10年以上たつって、これで見れば分かるんでしょうけど、
何年なんですか、完済するのは。令和何年なんですか。

○委員長（岩崎真滋）

西岡税務課主幹。

○税務課主幹（西岡 亨）

今から今後100年以上ということでございますので。

発言する者あり

○税務課主幹（西岡 亨）

ただし、前置きといたしまして、先ほど申しましたように、今の返していた

だく返納額によって今後変動するわけなんですけど、今の償還金ベースでいきますと100年以上かかるということでございます。

○委員長（岩崎真滋）

森田委員。

○委員（森田 勝）

私は若いときに自動車税を滞納したんですね。そうすると追徴金か何かを請求されてですね、税以上に、請求額以上に払ったという記憶があるんですけども、この使用料はそういうものがかかるような制度になってるんでしょうか、なってないんでしょうか。

○委員長（岩崎真滋）

西岡税務課主幹。

○税務課主幹（西岡 亨）

お答えします。

こちらの事業につきましては、延滞金とかはございません。

○委員長（岩崎真滋）

山田委員。

○委員（山田仁樹）

住宅新築資金の制度自体は、いろいろと固定資産税や住宅家賃とはまたちょっと違うところがあるということも含めて考えていかなければならないと思うんですけど、今、資料の訂正があった、これを見ただけでも、よくはないですけど、5年以内、10年以内、10年以上の滞納の方も確実に納められているということですよ。それで、まずもう一つ確認したいのは10年以上、今最高で100年かかると。この中で相続はもちろん、その方の家庭事情というのは分かりませんが、今後ですね、相続をされたときにその相続の方がどのような返済をされているかっていうことによっても、ある程度変わるということですよ。

○委員長（岩崎真滋）

西岡税務課主幹。

○税務課主幹（西岡 亨）

お答えいたします。

おっしゃるとおりでございます。

○委員長（岩崎真滋）

山田委員。

○委員（山田仁樹）

それともう1点、先ほどの相続人不存在ということで、今現在、競売、公売

の手續をされている。それが完了し次第、その他大臣によって4分の3の補助が頂けて、4分の1を町が負担しなければならない。これは住宅新築資金の中からも負担になってくると思うんですが、そうすると10年以上の方も相続人不存在になっていった場合、相続を放棄された場合は不納欠損にしてしまうのではなく、また、その他大臣という制度を活用して、その返済に充てていただくということも今後起こり得るということでもいいですか。

○委員長（岩崎真滋）

西岡税務課主幹。

○税務課主幹（西岡 亨）

今おっしゃっていただいたとおりですね、相続人不存在ということになればですね、いわゆるその他大臣事業の要件といたしまして、公売なり、競売なり、任意売却なりによって、そういうことをしなさいよと。まず、これは前提としてございます。売れる売れないにかかわらずですね、そういうプロセスを踏まえまして、当然売れましたらその収益の部分は一応補填させていただくわけなんですが、足らず分の4分の3をその他大臣の補助金で賄っていただくと。このように今後もしていきたいというふうに思っています。

○委員長（岩崎真滋）

山田委員。

○委員（山田仁樹）

そのためには、不納欠損にする必要がないという理解になると思うんですが、そこでもう1点、政策体系のときに相続人不存在ということで、今森田委員のほうからありましたが、過去に火災になった家もございました。相続人が相続放棄をされてですね、火災になったという事例もあったと思うんですが、これまでその他大臣の制度を適用してですね、要は貸付けとして、その方に対して手續が完了している方はどこに入ってるんですかって聞いたんですけど、それは今後返済のほうに入ってるという御答弁だったんです。これは、ここにある相続人不存在の3件のことをおっしゃってたのかなと思うんですけど、これまで手續が完了した方は完済件数のほうに入っているという理解でいいですか。

○委員長（岩崎真滋）

西岡税務課主幹。

○税務課主幹（西岡 亨）

失礼いたしました。政策体系表に書いている数字に関しましては、完済のほうに含まれているということでございます。

○委員長（岩崎真滋）

山田委員。

○委員（山田仁樹）

そうすると不納欠損というか、町の4分の1は町費から出したにせよ、不納欠損という言葉とはちょっとニュアンスが違うかも知りませんが、そういう手続を完了したという、そういう理解でいいですよ。

○委員長（岩崎真滋）

西岡税務課主幹。

○税務課主幹（西岡 亨）

はい、そのとおりでございます。

○委員長（岩崎真滋）

森田委員。

○委員（森田 勝）

もう1点だけ、206ページのところなんですけども、今、弁護士の方と相談されてると。その費用はどこに入ってるのか。弁護士は無料で働いてくれなわけですから当然入ってると思うんです。これの供託金は裁判所に供託されてると思うんですけども、弁護士費用はどこに表示されてるんでしょうか。

○委員長（岩崎真滋）

西岡税務課主幹。

○税務課主幹（西岡 亨）

お答えいたします。

決算書の207ページの事業費、事業費、事業費の7番報償費の中に謝礼として計上させていただいております。

○委員長（岩崎真滋）

ほかにございませんか。植田委員。

○委員（植田いずみ）

政策体系のときに、滞納の分納で入る金額は年間約400万円ということだったと思うんですけども、昨年度は500万円あったと。今年度の収納予定は、予算のところでは600万円ちょっとだったと思うんですが、今のところどれぐらいを収納予定として見込んでおられるのか。お願いいたします。

○委員長（岩崎真滋）

西岡税務課主幹。

○税務課主幹（西岡 亨）

お答え申し上げます。

今の償還金ベースでいけば、皆さんの合計金額を合わせますと大体年間400万円ということがございますので、同じように一応400万円ぐらいになるのかなというふうには思っております。

○委員長（岩崎真滋）

植田委員。

○委員（植田いずみ）

400万円だって今おっしゃったんやけど、だけど予算では600万円を組んではるよね。その乖離はどこで出てくるの。どういう理由からそうなったんですか。

○委員長（岩崎真滋）

西岡税務課主幹。

○税務課主幹（西岡 亨）

お答え申し上げます。

令和6年度の予算のことですかね、今おっしゃっていただいているのは。そのうち先ほど申しましたように、競売なり、その辺で任意売却されたときに、恐らくと確証を持ってない言い方で申し訳ないんですが、先ほど競売、公売なりによって配当される金額も含まれているのではないかというふうに考えております。

○委員長（岩崎真滋）

植田委員。

○委員（植田いずみ）

ということは、そういう対象者がいらっしゃるという状況を行政としても見ているという、そういう見方でいいんですね。

○委員長（岩崎真滋）

西岡税務課主幹。

○税務課主幹（西岡 亨）

はい。現に1件はもう競売にかかっております。

以上です。

○委員長（岩崎真滋）

馬本委員。

○委員（馬本隆夫）

この住宅新築資金というのは、特別会計でどういう趣旨でできたかということを知らないというたらいかんけど、知っておられない委員さんもおいでになると思うからちょっとだけ話をするわな。小集落事業において環境整備をするのにお金がない。そのために同和対策事業として、その当時ですよ、最初、変わりましたが、土地については500万円、おうちについては700万円融資をしましょうと。融資ですよ、また後で返す、こういう形になるんやけど。それでできたのがこれや。山田君も先ほど言うてはる、そういうことや。しか

しな、自分らな大事なことを言うてないねん。非常に大事なことが抜けてんねん。あのね、人によつたらな、不納欠損とかならへんねや、そんなもん。最初の契約のときは抵当権を取ってなかってん、全部。途中で住宅新築資金も、土地も建物についても抵当権を取らなあかんということで議会でなつて、全部抵当権を設定されてんねん。そのとおりやろう、間違うてたら言うてや。

せやから、あなたが今ここで3件云々とかおっしゃってるけど、この件については、競売云々とかいう形になるということやろう。要するに、法定相続人は相続放棄されてるっていうことやろう。せやから、それはそれでされて、例えば1,000万円あって、分かりやすく言うたら600万円で売れましたと。400万円残って300万円を県からくれんねやろう。そういうことやろう。要するに100万円、町としては損が出るねやろう。けれどもや、今でも一緒やんか。住宅資金のこれ、15万円って何で県から入ってるの。利息に対する補助金と違うの。微々たる金か知りませんよ。もともとは利息に対する補助金ということで入ってたんやろう。金額が減ってるから、それはもう地権者も減ってるから。せやからね、なんかこんなん言うたら悪いけど、私もこの地域やからはっきり言うけど、何か知らんけど、こんだけ借金云々と言うてるのはおかしい思いを持たんでほしいと思う。それは個々の皆さんは事情があつて、時効を阻止するために抵当権並びに分納誓約をしてはるわけや。してはるということは時効がないということや、そういうことやろう。せやから、今、山田君も言うたように、相続された方が、いや、その負債は私が持ちます、一発で完納しますっていう親族もおいでになるかも分からへん。せやから、要は抵当権を取つてある以上は町が持つてるわけやんか、権利。そういうことやろう。町は権利もお持ちやろう。せやから、今言うた3件については競売しまつせという手続に入ってますよということをおっしゃってるわけや。せやから、あとは皆、分納誓約の誓約書を持つてる以上ね、取つてある以上は町がその辺を持つてはんねや。

この件についてね、いろいろ今まで県のほうで何町村か寄つて弁護士を入れてやりましょうかという組織にお声がけもあつたけど、平群町はしないということで、町自身がやつてもうてるわけやろう。弁護士費用、負担金はそんなもったいないということもあつたやんか。今から思い出すと。せやから、100年かかる云々というおうちがあつてもね、よう聞いてや。誰かその親族の方が息子や娘とかいろいろいはるのか分からへんやん、法定相続人な、私とその借金を全部返しますって。せやから、そのおうちを私の名義にしますって言わはるかも分からへんやん。せやから、一番大切なことはな、行政に言うてほしいのは、抵当権を皆さんが持つてますと、町がということをおっしゃる。

たら、皆さんね、うちらこの村の人は放棄はしてないねやんか、そんなん。おかしい考えを持たせるような物の言い方をしてほしくないということや。

国に基づいて同和対策事業をしたわけやんか、法律に基づいて。そうやろう。劣悪なる環境をきれいにしましょうということで、それで家も建てていろいろしはってんけども、個々のいろんな事案でローンじゃないけど、遅れてるわけやん。そういう方が12世帯あんなやろう。12世帯ということやろう。けれども、今度は3世帯がそういう形になったら9世帯、大体残るわけやろう。そういう形になってくるわな。せやから、説明だけ、それだけはっきりしてほしいで。うちの町としては、抵当権がありますので競売にかけてね、もしもその差額は4分の3、県から頂きますと、実質平群町は4分の1の損失が出ますと。それだけですよと。ここに残らした人にも相続される方がおいでになってね、この債務者が亡くなって、そこの法定相続人が一括して全部お支払いしますっていうおうちもここに出てくるかも分からへんやん。ということだけ、ちょっとそういうことの説明も加えてほしかったなというのが、非常に僕にしたら残念な説明になるさかいに、そこをよろしゅう頼みます。まあそういうことです。

○委員長（岩崎真滋）

ほかにございませんか。委員外から、山口議長。

○議長（山口昌亮）

今、馬本委員が全部説明しましたけども、本体の事業が終わってて、後は債権をどうということなんでね、この事業はさっきから詳しく言ってはるから、もうそれ以上言うことはないんですけど、基本的に平群町と安堵町以外が奈良県でやって、それも解散してるんですよ、去年に。前から言ってるように、三郷町については5億円の穴を空けて、既に3億円は一般会計から入れて、それでも今まだ2億円ぐらいの赤字が出たままで特別会計をやってるっていうふうに聞いているんで、そういう意味では平群町はきちんとやってね、後は債権をどう取るかって言うたらおかしいけど、どう回収するかということなんでね、その辺もちょっと最初に説明しないと、長良委員が質問したときに、その辺もちゃんと言わないとね、何かこう議論がかみ合っていないような気がしたんで、その辺はちょっと気をつけていただきたいなというふうに思いましたんで、もう要らんことですけど、ちょっと発言させていただきました。

以上です。

○委員長（岩崎真滋）

ほかにございませんか。

「なし」の声あり

○委員長（岩崎真滋）

ないようでしたら、本案に対する質疑を終結いたします。
続いて、これより討論に入ります。

「なし」の声あり

○委員長（岩崎真滋）

ないようでしたら、本案に対する討論を終結いたします。
これより認定第2号について採決を行います。

本決算について認定することにいたしたいと思いますが、異議ございませんか。

「異議なし」の声あり

○委員長（岩崎真滋）

異議なしと認めます。よって、認定第2号 令和5年度平群町住宅新築資金等貸付事業特別会計歳入歳出決算の認定については認定すべきものと決定されました。

続きまして、認定第3号 令和5年度平群町国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定についてを議題といたします。

初日の本会議において議案の説明を受けておりますので、説明は省略させていただきます。また、資料についても、配付しています資料については説明を省略させていただきます。

これより本案に対する質疑に入ります。植田委員。

○委員（植田いずみ）

国保の部分については、県の統一料率のほうに向かっていってるんですが、それにしても国保税が高過ぎるということに変わりはありません。そこで子育て支援の一環としてですね、子どものこれ、全国的にやられてるところもあるんですが、均等割について国保会計の今ある基金、あるいは一般会計からの補助をすることなどを検討していくべきではないかというふうに思うんですけれども、その点についてはどうでしょうか。

○委員長（岩崎真滋）

異健康保険課主幹。

○健康保険課主幹（巽 知子）

子育て支援については、今、社会的にいろいろ問題になってるかと思うんですけども、国保会計につきましては、これまでどおりでいきたいと思っております。

以上です。

○委員長（岩崎真滋）

植田委員。

○委員（植田いずみ）

これは政策的な判断になってくるとは思うんです。そういう意味では、子育て支援を平群でもホームページを見ても一番にぱんと出てくる、まちづくりの形が出てきてますし、こども支援課という形もこの4月からスタートしたということもあって、そういう意味では平群町に移住してもらい、平群町で暮らしてもらい政策の中の一つとしてね、そういうことも保険料負担っていうのは大きいですから、そこら辺のところ、子どもたちは自分でお金を稼ぐことができませんので、ただ会計上、この均等割というのはオギャーと生まれたときからかかるわけですから、そういう意味ではそこを行政としてフォローして、若い人たちが来てもらうっていう一つの施策にもなっていくかと思うんですが、町長自身はそこに平群町としても何らかの形で支援をしていくというお考えはないですか。

○委員長（岩崎真滋）

松本住民福祉部長。

○住民福祉部長

子育て支援策ということで、均等割についてを何らかの形で助成なりというふうな御提案であるというふうに認識をいたしますけれども、子育て支援策といいますのは、様々ないろいろな支援策がございますので、その中の一つとして御提案いただいていることであろうかと思えます。ただ、平群町にとってどういった子育て支援策が有効であるか有効でないか、何が効果があるのかっていうことについては、様々な施策において検討や評価をしていかないといけないというふうに考えておりますし、県単位化になることによって、それを行うことが実質的に無理であるというふうな考え方もございますので、先ほど主幹が答弁いたしましたとおり、今までの国保財政会計で運営をしていくということで御理解をお願いいたします。

○委員長（岩崎真滋）

ほかに。森田委員。

○委員（森田 勝）

決算書の213ページの未収額ですね、滞納だと思うんですけども、この4,080万円ですけども、説明資料を委員会で頂いてるんですけども、3,470万円ぐらいになってるんですけども、これは4月から9月3日までにお金を納付していただいたというふうに理解していいのでしょうか。

○委員長（岩崎真滋）

巽健康保険課主幹。

○健康保険課主幹（巽 知子）

委員おっしゃるとおり、その差額につきましては納付いただいた分になります。

○委員長（岩崎真滋）

森田委員。

○委員（森田 勝）

運協でも度々申し上げてるんですけども、滞納されてる方の保険証というのかな、その交付は命に関わることですので、きちりしていただいていると思うんですけども、徴収は税務課でやられて、保険証の交付は健康保険課なんですけども、その辺は住民からいろいろ苦情とか何とかしてくれとかいうようなことは出ておらないのでしょうか。

○委員長（岩崎真滋）

巽健康保険課主幹。

○健康保険課主幹（巽 知子）

常に税務課と連携しておりますので、そういった苦情は特に聞いたことはございません。

以上です。

○委員長（岩崎真滋）

ほかにございませんか。

「なし」の声あり

○委員長（岩崎真滋）

ないようでしたら、本案に対する質疑を終結いたします。

続いて、これより討論に入ります。植田委員。

○委員（植田いずみ）

今回の認定については、反対の立場で討論をいたします。

本決算の基となる当初予算の時点で、国保会計の剰余金は2億円を超えていました。私ども日本共産党議員団は、本町の国保税が2022年度の減額後も

県内で最も高いことから、剰余金を活用して少しでも引下げをと求めてまいりましたが、行政当局はそれを拒否してまいりました。しかし、昨年度の結果、当初予算で単年度4,000万円以上の赤字予算でしたが、決算は1,182万円の赤字でした。一定額を引き下げる余地は十分あったと判断できます。今年度からは県内統一料金になり、町単独での減額はほぼできなくなりますが、例えば子どもの加入者に対して均等割部分を福祉施策として給付するなど、さっきも提案しましたが、町長の裁量でできます。このことも指摘して、それをやる考えはないということでしたので、昨年度の国保会計の決算の認定については反対をいたします。

以上です。

○委員長（岩崎真滋）

山田委員。

○委員（山田仁樹）

認定第3号 令和5年度平群町国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定について、賛成の立場で討論いたします。

平成30年度から国民健康保険制度の県単位化がスタートし、6年が経過しました。完全統一目前となる令和5年度は、前年度実施の減税後の税率で事業運営を行ってこられました。両年度ともに単年度収支においては赤字決算となりましたが、剰余金の活用で健全な運営が行われていると考えます。また、1人当たりの医療費が高いと聞いておりますが、町単独実施の保健事業において、病気の早期発見、早期治療、重症化防止に向けて剰余金も活用しながら健康長寿につなげていただけるような事業実施をお願いをいたしまして、本特別会計決算の認定に賛成をいたします。

○委員長（岩崎真滋）

馬本委員。

○委員（馬本隆夫）

令和5年度平群町国民健康保険特別会計決算認定についての賛成討論を申し上げます。

国保の安定運営のため、平成24年度から奈良県独自での県広域単位化の検討が重ねられ、市町村長サミットが進められてきました。平成30年度から県下39市町村長合意の上、県単一化完成に向け検討もされてきました。本町も令和6年度に県単一化実施の運びとなりました。奈良県では同じ所得、世帯構成であれば、県内どこに住んでいても同じ保険料水準とすることで、受益と負担の均等が図られることを目標とされるため、本町の県内統一保険税率の改正条例が令和5年度において可決をされました。

なお、本町の場合は医療費水準を保険税に反映しない奈良県下統一化は本町にとって大変すばらしい方式であると言わざるを得ません。被保険者にとりましても、大変すばらしい制度の準備がされた5年度でありました。

よって、令和5年度平群町国民健康保険特別会計決算認定については、賛成といたします。

以上であります。

○委員長（岩崎真滋）

ほかにございませんか。

「なし」の声あり

○委員長（岩崎真滋）

ないようでしたら、本案に対する討論を終結いたします。

これより認定第3号について採決を行います。

本決算について認定することに賛成の方の挙手を求めます。

賛成者挙手

○委員長（岩崎真滋）

挙手多数であります。よって、認定第3号 令和5年度平群町国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定については認定すべきものと決定されました。

ここで説明員が入れ替わりますので、しばらくお待ち願います。

説明員交代

○委員長（岩崎真滋）

続きまして、認定第4号 令和5年度平群町農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算の認定についてを議題といたします。

初日の本会議において議案の説明を受けておりますので、説明は省略させていただきます。

これより本案に対する質疑に入ります。

「なし」の声あり

○委員長（岩崎真滋）

ないようでしたら、本案に対する質疑を終結いたします。
これより討論に入ります。

「なし」の声あり

○委員長（岩崎真滋）

本案に対する討論を終結いたします。

これより認定第4号について採決を行います。

本決算について認定することにいたしたいと思いますが、異議ございませんか。

「異議なし」の声あり

○委員長（岩崎真滋）

異議なしと認めます。よって、認定第4号 令和5年度平群町農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算の認定については認定すべきものと決定されました。ここで説明員が入れ替わりますので、しばらくお待ち願います。

説明員交代

○委員長（岩崎真滋）

続きまして、認定第5号 令和5年度平群町学校給食費特別会計歳入歳出決算の認定についてを議題といたします。

初日の本会議において議案の説明を受けておりますので、説明は省略させていただきます。また、資料についても、配付しています資料については説明を省略させていただきます。

これより本案に対する質疑に入ります。長良委員。

○委員（長良俊一）

昨日から、教育費のところで給食の話も出ましたけれども、引き続き決算審査特別委員会なんで、今日聞こうと思ってたんです。コロナが明けまして、コロナ期のときだったらね、いろいろな交付金で充当しながらも賄い費を何とかして、こういう高騰の時期なんで、補填というたらあれやね、補ってもらって、懸命に質を落とすことなく、子どもが笑顔でおいしって言ってもらえるように取り組んできてくれる。それはもう物すごく僕は感謝してる。子どもも一生懸命「おいしい、おいしい」って言うてね、昨日から9月も給食が始まった

んかな。そういった形で、子どもたちに一生懸命やっただけというふうには感謝したところで、一つお聞かせください。

今後、普通に、コロナ禍が明けて、給付以外にお金をどうやって回していこうかっていう段階に入っていく。受益者負担の原則の時代になってね、食べるもの以外は役場で今は面倒を見てる。それ以上に食べるものも面倒を見ざるを得ない、こんな時世になりつつある。もう何もかも値上がりしてる中、給食の代金だけは一円たりとも動かさませんって、それはなかなかちょっとしんどい弁明やと思う。それに対して、そういう答弁を過去、この二、三年やっておられたと。この決算においてね、次年度、また来年同じような形で、このまま下がっていくことはないんだから、子どもたちに喜んでもらい、安心してもらって創意工夫していこうか、どういうふう考えられているか、お聞かせ願います。

○委員長（岩崎真滋）

川端学校給食センター所長。

○学校給食センター所長

ただいまの委員の御質問にお答えさせていただきます。

確かに、物価高騰が続いてる中で、数年前まではコロナ禍の関係で、国の交付金等も活用させていただきながら安定的な給食をさせていただいてきました。確かにこの御時世、これからも物価高騰が続くと考えられますので、給食も同じように大変厳しいですけれども、何とか創意工夫しながらやっているところでございます。

また、今後につきましては、どうしても予算の範囲内で賄えないぐらいになってくるかと思えます。そのときは、また町のほうにもお願いしまして、決して給食の質や量を落とすことなく、安全でおいしい給食を安定的に供給してまいりたいという気持ちは、これまでどおり変わりませんので、そういったことで御理解いただきたいなと思えます。

○委員長（岩崎真滋）

長良委員。

○委員（長良俊一）

申し訳ないけどもね、僕は正直な話、限界が来てると思うんです。お金を守る、この金額を。値上げさせてもらうときに、御父兄にアンケートを取って、1回値上げするに当たって、平群町もそういう試みをして値上げをさせていただきました。僕も子育て真っ最中の親としてね、ここだけ抑えてくれるのはありがたいけれども、やはり子育て真っ最中の親も分かっていることなんです。その代わり、値上げして質が落ちるっていうことは間違ってるけれどもね、それ

相応の形でちゃんと父兄にも、社会にもお示しするのは行政の務めやと思うんです。どこで我慢してもらうんか。地産地消の原則で、こんな山あいの豊かなね、ゆっくりした町で子育てしようと思った父兄、人生の先輩方、賄いで手伝ってもらってる人に金額をちょっと我慢してくれって、そんなわけにはいかへんと。昨日もやはり先輩委員がおっしゃってました。そのとおりだと思う。時代で時世が上がってるのに、点だけ止まってるなんて、それは難しい話やと思う。こうやって公文書の答弁のときに、正直に答えてもらえるように、僕は波を送ってるだけでね、しんどいのはよく分かってるけれども、そこで結果が出たら、それはみんなが喜ぶことやけども、正直なとこだけ留意してね、来年度また同じような形で話が進めるように努力してやってください。本当に子どもは喜んで食べてるんだから、守ってあげてください。どうぞよろしくお願いします。

○委員長（岩崎真滋）

植田委員。

○委員（植田いずみ）

一つ平群町のほうにお聞きしたいのが、子どもたちの給食の栄養価についてなんです。月間の平均的栄養価っていうのは、ある程度、厚労省のほうから、この基準はというのが来てると思うんですけど、平群町は今現在、小学校、中学校、それぞれ何キロカロリーでやってるか、お分かりでしょうか。

○委員長（岩崎真滋）

川端学校給食センター所長。

○学校給食センター所長

ただいまの委員の御質問にお答えします。

委員おっしゃっていただきましたように、提供する給食のカロリーというのは国の基準で決まっております。平群町の給食につきましても、その基準を下回ることなく、提供のほうは間違いなくさせていただいてるんですけども、今この場につきまして、ちょっと申し訳ございません、何カロリーかっていうのはちょっと持っておりませんので、後日お答えさせていただきます。

○委員長（岩崎真滋）

植田委員。

○委員（植田いずみ）

ありがとうございます。数字的には今手元にないけれども、基準的なカロリーをきちっとクリアできているという、そういう御答弁だと思いますので、お願いいたします。

平群町は本当に県下でもおいしい給食を提供していただいているってことは

私も十分知ってますし、だしもしっかり取って、そういう意味では非常に食育的に頑張っていたらと。確かに、いろんなものが上がる中で、それでもできるだけその中でいろいろ創意工夫しながら提供していただいているということは本当にありがたいと思います。そこは栄養士の方も含めてね、現場の皆さんの御努力で何とかなっていると。

今、全国的には給食の無償化っていうのがどんどん広がっていく中で、私は本来的には国の施策としてやっぱりやるべきじゃないか。教育が無償であるならば、当然給食も食育という一つの大きな役割を果たしてますのでね、そこは国のほうの施策としてやっぱり本来的にやるべきだなというふうに思っています。

それともう一つね、今、世間的にはお米がないとあって、大変テレビでも報道がされてまして、実際私もスーパーへ行ったら棚に米がないという状況も見えています。そういう中で、米飯給食も平群町は週3回かな、提供していただいているということなんですけども、今の米不足に対して、米飯給食への影響が出てないのかなというはちょっと心配にはなってるんですが、そこら辺はある程度の量というのはちゃんと年間確保してはるとは思うんですけども、県のあれやからね。そこら辺はどうなのかというものが一つ。

それと、食品ロスということも結構ずっとこの間言われてますよね。そういう意味では、給食の残渣的なものがどのような状況になってるのか、そこら辺はできるだけ食品ロスを出していかないような形で、食べてもらうことがしっかり栄養を取るといふ部分でも必要ですので、そこら辺の取組というのは、常にそういうことを頭に置いていろいろ対応はしていただいているとは思いますが、そこら辺のところも何か取組していることがあれば、すみませんがお聞きをしておきたいと思います。

○委員長（岩崎真滋）

川端学校給食センター所長。

○学校給食センター所長

ただいま委員から大きく2点の御質問を頂きましたので、お答えさせていただきます。

まず、米が不足しているということで御心配いただいているところですけども、私どももその辺りが気になりますので、学校給食会のほうに問合せいたしましたところ、担当の方からは計画的に仕入れを行っておりますので、給食で不足することは現在ところ考えられないということで回答を頂きました。

それと食品ロスの関係で、残渣の取組につきましては、これは主に管理栄養士が学校のほうに出向きまして、そういったことで食育のそういう残渣も含め

た指導をしています。それと学校のほうでも先生方が中心になって、どういう形で残さないようにきれいに食べれるかっていう指導を常々していただいているというふうには聞いておりますので、そういったところで最近は少し減ってきたのかなというふうに思っているところでございます。

○委員長（岩崎真滋）

植田委員。

○委員（植田いずみ）

ありがとうございます。お米については問い合わせてもらったところ、今のところは心配ないと、それはよかったと思います。

残渣についても、いろんな機会でそういうふうな食育の観点からも、しっかり残さないように食べようということで指導していただいているということで、最近多少は減ってきているというふうな状況だと感じておられるということですので、そこら辺はしっかりこれからも続けていただきたいと思いますし、数字でもできたら抑えていただけるようにしていただけたらと思います。

私からは以上です。

○委員長（岩崎真滋）

森田委員。

○委員（森田 勝）

先ほど、長良委員からもお話がありましたように、給食費のことを教育委員会をはじめ、給食センター所長も非常に御苦労されてやっていただいていると思うんですけどね、本当にきっちり現状を保護者のほうに連絡することも大切じゃないかなというふうに思うんですよ。給食費は4,400円ですけども、実際は米飯とか人件費とか光熱水費、町なりが制度的に負担しているというわけなんですよね。そういうことはあんまり保護者の方は知っておられない。まあ知る必要はないかも分かりますけどね。やはりそういうことも補助していることが分かるような形を取っていただきたいなというふうに思います。これは意見ですけどね。

もう一つは、植田委員からありましたけども、食品ロスの問題なんですけどね、食べ残しとかですね、量的なことは分かりますでしょうか。今どれぐらいの食べ残しが出てくるのか。当然、食べ残すというのはコストですからね、それがどれぐらいのボリュームになって費用換算にすればどうなるのか、つかまれておられますでしょうか。

○委員長（岩崎真滋）

川端学校給食センター所長。

○学校給食センター所長

ただいまの御質問にお答えさせていただきます。

まず、残渣を数値的に申し上げさせていただきます。令和5年度でいいますと、小学校が年間で2,234キロです。1日平均で約15キロ、中学校で845.5キロ、1日平均で13.8キロとなっております。学校全体では3,079.9キロというふうな数になっております。それも全体で平均しますと14.7キロというふうな形になります。令和4年度と比較しましたら、令和4年度は小学校で2,476.7キロ、1日平均16.4キロ、中学校で1,158.9キロ、1日平均で17.9キロというふうになっておりまして、学校全体で3,635.6キロ、1日平均で16.8キロとなっておりますので、令和4年度よりは少し減らすことが、先ほど申し上げましたように、そういった指導のことが功を奏して減少傾向にあるのかなというふうに感じておるところでございます。

以上です。

○委員長（岩崎真滋）

森田委員。

○委員（森田 勝）

頑張ってください、もっと食べ残しを減らすように、全てコストですのでね、その辺のことを留意していただきたいと思うんですけどね、この残渣はどういう処理をされてるのでしょうか。

○委員長（岩崎真滋）

川端学校給食センター所長。

○学校給食センター所長

ただいまの残渣の処理につきましてお答えさせていただきます。

給食センターにおきまして少し大型の生ごみ処理機が設置されておりまして、残った残渣につきましては、そちらのほうで微生物分解というんですか、バクテリアによる分解を行って処理をしているところでございます。

○委員長（岩崎真滋）

森田委員。

○委員（森田 勝）

そういうことで処理機で処理をされてると。ゼロにはならないと思うんです、絶対に。ほとんどが水分だと思うんですけども、その生ごみ処理機をした残ったものはどのように処理されてるんですか。

○委員長（岩崎真滋）

川端学校給食センター所長。

○学校給食センター所長

残った残渣につきましては、ほぼほぼ水分に分解されまして処理されますので、どういんですかね、野菜かす的なものは少し残るんですけども、次第にそれも含めてなくなっていくような形で、特に取り出して処分するとかっていうことは今現在行っておりません。

○委員長（岩崎真滋）

森田委員。

○委員（森田 勝）

非常にいい機械ですね、私は初めて知りましたが。それであれば住民生活課のほうにもちょっとその情報提供をしてあげてですね、ごみを減らすことが今、平群町としても至上命題だと思いますのでね。ちょっと所長ね、住民生活課の方にも情報提供してあげれば、町のボリュームからしたら当然無理だと思うんですけどね、いいことをやっておられると思いますので、ちょっと情報提供を住民生活課にしてやってほしいなというふうに思います。よろしく願いします。

○委員長（岩崎真滋）

植田委員。

○委員（植田いずみ）

今さっき、ちょっと残渣の件で数字をおっしゃってたんですけども、1人当たりの量というの、比べるによってはやっぱり生徒数その年によって変わってくるので、それでどうなのかっていうのをしようと思ったら1人当たり何ぼというのにしたほうが、私は正確かなと思いますので、そこら辺も含めて、今後データを取るときにちょっと気をつけていただきたいなというふうに思います。それだけお願いしときます。

○委員長（岩崎真滋）

川端学校給食センター所長。

○学校給食センター所長

ただいま委員のほうからありましたように、データを取る際に1人当たりの量もということです。そういったことで、1人当たりの量を取ったほうが確認もしやすいと思いますので、今後はそういったデータも取っていききたいなというふうに考えております。

○委員長（岩崎真滋）

ほかにございませんか。馬本委員。

○委員（馬本隆夫）

いつもね、子どもたちが喜ぶ給食を作っていて、まず感謝を申し上げます。しかしそっから、例えば設備の機械、いろいろな会社や食品関係でもプ

ラスチックのかけらが混入してたとかね、食品に。そういうことは今のところないと思うけど、うちの平群町のたしか何年か前に新庄町かな、どっかで天ぶらの揚げる機械か何かもうて、その経費だけこっちへ支払うて、設置する金を支払うただけでそういう機械も入れたね。そういうふうに記憶してんねんけど、施設的にどうやの。老朽化してるん違うかなと僕は思うね。事故が起こってからではまた大変やから、そこら辺は行政に対してね、この機械はもう老朽化、耐久年度が過ぎてますねと。緊急じゃないですよ。そういう年次計画的な入替えじゃないけども、そこら辺も考えておられへんかな。というのは、今まで昔は3,000人以上を作ってた給食やろう。今は何やって、千二百何ぼ作ってるだけやろう、失礼な話やけどな。そうやろう。1日千二、三百やろう。ということは、そんだけ減ってるわけや。減ってる云々は致し方ないことやけど、将来にそれに見合ったようなコンパクトな機械、今まで大きい機械じゃないからな、3,000人いるような機械は要らんわけやんか。将来性に見合ったような機械をね、1年に一遍ずつでも入替えてもらうとか、こんなん決算にも入ってないやんか。そうやろう。そういう賄いだけの分やけどな、けれどもやっぱりそういうことは行政に提供してんの。要望してるのかと聞いとくわ。そこら辺はどうやの、事故が起こってからでは遅いで。

○委員長（岩崎真滋）

川端学校給食センター所長。

○学校給食センター所長

ただいま委員の御質問を頂きましたので、お答えさせていただきます。

おっしゃっていただきますように、給食センターもできてから35年ほどたちますので、機械につきましてもかなり老朽化が進んでいるような状況にあります。現在のところは修繕という形で何とか現時点ではやってこれてるような状況です。ただ、大きな修繕とかそういったことになってきますと、あってはならないことですが、給食が止まってしまうなんてことにもなりかねないです。ですんで、今、貴重な御意見を頂きました。財政のほうには、そういったことで機械の入替え等については今のところ要望とかはしておりませんが、今後もちろん費用の面とかもあるとは思いますが、給食数も減ってきましたので、それに見合った形の機械を年次計画といいますか、計画を立てながら、また財政とか町のほうにも御相談させていただきながら、新しい機械を入れたいなというふうな形で進めていきたいと考えております。

以上です。

○委員長（岩崎真滋）

馬本委員。

○委員（馬本隆夫）

昔の大きい機械より、今は小さい機械のコンパクトなほうが性能がよくなる機械もようけあるやん。そうやろう。それはね、大きい機械は電気をようけ食うしね、経費がかかり過ぎるねん。今のは小さい機械でな、要するに性能もよくなってるやん。そういうこともやっぱり現場としてはさ、行政のほうへ要求するときいろいろ、そら財政は厳しいですよ。厳しいですけども、子どもの健康上な、事故があつてからしたつて、機械に混入しましてん。プラスチックが割れて中に入りましてん、金属がおかずの中へ入つてましてん。これ、保護者に対しても、また子どもに対しては一番申し訳ないやん。そやから、財政はないけどもね、やっぱりそこら辺を行政に要望していく。その代わり、年次計画を立てながらな、そこはやっぱりちょっと行政と話をしてほしいな。そうしやんなら、何ぼ1,200人が1,000人になつたつてな、逆にや、大きい3,000人を作る機械を置いてたらロスやで。電気代から維持管理が大変やということも考えられるし、故障代も故障も多うなつてくるし、そういうこともわきまえてな、ひとつそこら辺をよく調査研究されてね、ひとつよろしく行政のほうへ要望したつて。ほんならお願いします。

○委員長（岩崎真滋）

ほかに。

「なし」の声あり

○委員長（岩崎真滋）

ないようでしたら、本案に対する質疑を終結いたします。

続いて、これより討論に入ります。

「なし」の声あり

○委員長（岩崎真滋）

ないようでしたら、本案に対する討論を終結いたします。

これより認定第5号について採決を行います。

本決算について認定することにいたしたいと思いますが、異議ございませんか。

「異議なし」の声あり

○委員長（岩崎真滋）

異議なしと認めます。よって、認定第5号 令和5年度平群町学校給食費特別会計歳入歳出決算の認定については認定すべきものと決定されました。

午前10時30分まで休憩いたします。

（ブー）

休 憩 （午前10時12分）

再 開 （午前10時30分）

○委員長（岩崎真滋）

休憩前に引き続き再開いたします。

（ブー）

○委員長（岩崎真滋）

続きまして、認定第6号 令和5年度平群町介護保険特別会計歳入歳出決算の認定についてを議題といたします。

初日の本会議において議案の説明を受けておりますので、説明は省略させていただきます。また、資料についても、配付しています資料については説明を省略させていただきます。

これより本案に対する質疑に入ります。植田委員。

○委員（植田いずみ）

まず、ちょっと細かいところで聞きたいんですが、決算書のページ数でしたら300ページで、体系表のところのは10ページの地域支援事業のことについてちょっとお聞きをいたします。介護保険の中の地域支援事業の中で、緊急通報サービスっていうのがあると思うんですけども、これについてですね、ちょっとその前にお聞きしたところ、令和6年4月1日の時点で75歳以上の独り暮らしの世帯が843世帯、高齢者のみの世帯として1,067世帯というふうにお聞きをしてたんです。利用者の大半が多分、この通報制度は75歳以上の方が多くないかなというふうに考えるんですけども、そうするとですね、この利用者数からいけば、3割弱の世帯に設置されていると思いますが、もし正確な数字を担当課のほうでつかんでおられるならばちょっとお聞きをしたいと思います。お聞きをした上で、その数字をどのように担当課としては考えておられるのかということをお聞きをしたいと思います。

○委員長（岩崎真滋）

藤井福祉課主幹。

○福祉課主幹（藤井純郎）

委員の質問にお答えさせていただきます。

今現在なんですけども、特定の年齢構成に応じた取得者っていうのは数字を持ち合わせておらないんですけども、おおむね委員おっしゃるとおり、75歳の方が多いのかなという感じはいたします。

以上です。

○委員長（岩崎真滋）

植田委員。

○委員（植田いずみ）

ということは、3割弱、この数字ね、載ってる体系表の数字から拾って計算したんですけども、3割弱の世帯にしか設置されてないのかなと私は思って、ちょっと少ないなというふう感じたんです。担当課としては、今の現状についてどのように認識されてるのかなって。今後、目標値なんかがあるのかどうか、そこら辺も含めて聞いておきたいなと思ってるんですが。

○委員長（岩崎真滋）

藤井福祉課主幹。

○福祉課主幹（藤井純郎）

今現在の利用の状況というか、今の状況なんですけども、基本的には福祉サービスの全般におきまして利用数増加を図るために、継続的な広報、ホームページ等、役場窓口、また地域包括センターのほうで啓発等をしていっております。また、このサービスを受けていただくために、内容等を説明する中でいろんな方がいらっしゃいますので、その中でこういったサービスについて行うところでサービス内容を説明する中で定期的な安否確認の連絡、また扶養であるとか、いろんな制度を説明する中で、緊急通報時に駆けつけていただく方の協力員とか家族の状況について記入していただくところがあるんですけども、最近の近所付き合い等がない方とかがいらっしゃいますので、そういった方が申請時において苦慮されてるといふところがあるとは思いますが、民生委員さんやケアマネ等に協力いただきながら、関係機関が連携しながら今後も必要な方には必要な御利用をという形で利用していただけるように努めてまいります。

以上です。

○委員長（岩崎真滋）

植田委員。

○委員（植田いずみ）

行政としては、今の利用者数っていうのを少ないという認識は持ってはるという理解でいいんですかね。目標値みたいなのは、そこは定めてないというところ

ろなのか。確かに、いろんな状況でなかなかこれを利用していただけないという状況はあると思うんですけど、そこら辺はね。だけど、いざというときにね、その方の命を救う大きな手だてとなるということはあるから、これまでもあったと思うんですね。だから、そこら辺のところを御理解いただいて、皆さん私は大丈夫って思ってる方が多分多いとは思うんですけど、そうじゃないことが起こり得るというところにね、やっぱり行政としてもちょっとうまくお話をさせていただく中でね、高齢者の安全を見守るという立場でこの制度を、これ本人負担はありませんよね、基本的には。だから、そういうことを利用していただくということにちょっと心を砕いて、何か方法をしていただきたいなと。ある程度は目標を持っていただいたほうがそれに向けていろいろ知恵も出てくるだろうと思うし、そこら辺はぜひお願いしたいと思います。

それとね、もう一つ、同じ体系表の11ページ、地域支援事業の中の食の自立支援のところ、これ、5年の決算で55名の利用者で、年間配食数が1万260食ということで、ごめん、配食日数って年間何日、この場合はやってはんのかな、5年度は。単純にね、年間配食数を利用人数で割ったら1人当たり868食やねん、年間。1人の方が週何回利用されてるのかって、そういう今の状況、55人の方のうち週5回利用されてるとか、どこら辺が多い状況になってるのかなというのがあるので、それはお聞きをしたいと思います。利用者55人って65歳以上で7,000人、平群は超えてる。75歳以上で4,400人超えている状況の中で、55人ってちょっと私自身は少ないなというふうに感じてんねんけど、担当課としてはこの点についてどのように分析されているのか。また、配食のところ、いろんな要望が出てるんであれば、どういう声が聞かれてるのかというのを少しお聞きをしたいと思います。

○委員長（岩崎真滋）

浅井福祉課長。

○福祉課長

ただいまの御質問にお答えいたします。

まず、配食されている55名ということですが、これは3月の時点での実人数という形になります。ですので、件数としましては令和5年度では724件、基本的には1年間通して取られておられる方も多いんですけども、途中で利用を開始されたり、中止されたりという方もおられますので、実人数っていうので見るとちょっと分かりにくいかもしれないです。申し訳ございません。こちらのほうは、昼食を対面の形式で届けていただくということで、安否確認ということもやはり毎年何件かっていうのは出ております。

特に御要望っていうのは出てないんですけども、ちょっと最近気になり出

したのが、アレルギー食ということを言われる方もおられまして、そちらのほうには個々の対応はできないですということは伝えているんですけども、高齢者ということもありますので、その辺は少し気になるかなというところはあるんですけども、特に今のところ問題が出たことはなく、おおむね皆さんに喜んで取っていただいているということで、窓口のほうへ介護申請に来られた際などに配食サービスでありますとか、あと先ほど言った緊急通報装置のサービスでありますとか見守りも兼ねて、いろんなサービスの御案内をさせていただいているという状況でございます。

○委員長（岩崎真滋）

植田委員。

○委員（植田いずみ）

ありがとう。配食日数は年間何日されてるのかな。

○委員長（岩崎真滋）

浅井福祉課長。

○福祉課長

漏れておりました。申し訳ございません。令和5年度につきましては、242日となります。

○委員長（岩崎真滋）

植田委員。

○委員（植田いずみ）

ありがとう。242日ね。今現在っていうか、これ、数字的に出した利用人数が55人というのは、3月末の数字やということだったんですが、どういう利用が多いの。週何回ぐらいの利用してる人が一番多いのかな。

○委員長（岩崎真滋）

藤井福祉課主幹。

○福祉課主幹（藤井純郎）

基本的には週5という方が多いと思うんですけども、ただデイサービスへ行かれるとかいろんなパターンがありますんで、その方によって週あるうちの1日しか使わない方もいらっしゃいます。

以上です。

○委員長（岩崎真滋）

植田委員。

○委員（植田いずみ）

今のところはアレルギーの対応ぐらいの話だと。夕食とかに対しての要望とか、1日3食っていう部分ではね、民間のところもあるんやけど、そういうと

この声なんか聞こえてきてないのかなというのと、アレルギー食は確かに個々の対応は難しいと思います。ただ、人によってはそしゃくの度合いが違うので、ちょっと刻みにしてもらいたいとか、そういうふうな部分は対応してくれてはるのかな、どうなんやろう。みんな同じ調理形式の中での対応になってるのかな。

○委員長（岩崎真滋）

藤井福祉課主幹。

○福祉課主幹（藤井純郎）

今現在は、基本的には一律っていう形で食事は提供しております。

○委員長（岩崎真滋）

浅井福祉課長。

○福祉課長

失礼します。ただいまの回答を補足させていただきます。

こちらの自立支援サービスなんですけれども、あくまでも自立支援という方で在宅でお過ごしの方の配食という形になっておりますので、刻み食とか個々の対応というのはいたしておりません。ただ、高齢者向けの味つけであったり、あとカロリー計算であったり、少し軟らかめにさせていただいたりっていうふうに工夫はさせていただいておりますので、そちらのほうで特に要望というのは出ておりません。また、朝食・夕食につきましても、今現在、窓口のほうでお聞きしたということはありません。

○委員長（岩崎真滋）

植田委員。

○委員（植田いずみ）

ありがとうございました。もう一つ、288ページの趣旨普及費っていうところで、これ、多分、介護保険のいろんなサービスをこういう平群町でも出してはると思うんです。多分、これの印刷製本の数、費用がそこに上がってるんだと思うんですけれども、これ、提案なんですけどね、このガイドブックの中に一つはサービス提供事業者の一覧というのが最後のほうに載ってるんです。私はたまたま斑鳩町の分も見せてもらったんですけど、斑鳩町は結構、河合、上牧にも対象者を広げて載せてはると。平群町の場合は、生駒市とも隣接してるので、生駒市の事業者も私の住む北の地域なんかやったら事業所から近いという問題もあって、そういう平群町の地理的なものも含めた事業者の案内というのも、今後ちょっとやってほしいなというのが1点。

それとあと、要介護認定で一般質問でも取り上げたんですが、特別障害者手当が申請によってもらえる場合が出てくるというのがあって、あるいはまた障

害者控除対象者認定書というの、これも実際、今、平群町でも申請があれば発行してもらっているというのがありますので、せっかくこの冊子があるのであれば、やっぱりそういうものもちゃんと紹介していくことがね、より住民の方々に、なかなかそういう制度っていうのを知る機会が少ないので、せっかくだからこういうところにちゃんと載せてあげて、こんなんがあるんだ、じゃあ私も申請してみようとか、お母さんの申請に使えるかもしれへんとかということにつながると思うので、そういう案内を載せていただきたいと思います。ただ、今年度の3年間については、もう作っちゃってんね、全部。作っちゃってるといので、何か差し込みでいいからね、そういうなのも一緒に、もし取りに来はったときには渡せるような対応をしていただきたいというふうに思うんですが、新たに掲載するときのお願いと、今ある状況の中で少しでもそれを補足する形での対応をしていただきたいと思いますが、この点についてはどうでしょうか。

○委員長（岩崎真滋）

藤井福祉課主幹。

○福祉課主幹（藤井純郎）

委員お述べのとおり検討させていただきまして、現在の冊子の中で分かりやすいような形で挟み込んでいくとかそういった対応、また次の計画の時期を見て、ほかの市町村のパンフレット等を参考にしながら、次の時期についてはまた検討していきたいと思っております。

また、広報等についても制度については周知を、その時期に応じてしていきたいと思っております。

以上です。

○委員長（岩崎真滋）

植田委員。

○委員（植田いずみ）

ありがとうございます。ぜひ、親切丁寧な形で住民さんに使えるサービスの情報提供をしていただきたいというふうに思います。

それともう1点、最後に今回の当初予算についてなんですけども、実質単年度収支が1億円超えの赤字となっていました、決算では6,627万円の赤字で、予算の3分の2程度で収まっているという状況なんです。この差額が出た主な要因というのは何だったのかということと、また昨年度までの8期の3年間についても、計画ではトータルで3億円の赤字予定だったんですが、結果的には1億3,000万円に収まった。この点についても、どのように分析、検証結果として持っておられるのか、お聞きをしておきたいと思っております。

○委員長（岩崎真滋）

藤井福祉課主幹。

○福祉課主幹（藤井純郎）

まず、今年度と8期の計画と実績との差、乖離等の分析ということなんですけども、基本的には計画の段階におきましては、まず被保険者につきましては減少傾向にあるというところで計画しておりました。ただ、今年度8期の結果なんですけども、保険者自体については増加しているという状態となりましたので、保険料の増加分があると。また、交付金等で保険者努力、また努力支援という形で国のほうから補助金がありました。その分が当初計画にはちょっと見込んでおらなかったんで、この分が入ってきたというところなんです。また、介護特会のほうで、公共交通のデマンドタクシー等の事業を入れておるんですけども、県の補助金というのがありましたんで、そちらのほうも加算されてるといところで乖離等があったと分析しております。

以上です。

○委員長（岩崎真滋）

植田委員。

○委員（植田いずみ）

ありがとうございます。保険料の増加分と、それからいろんな交付金、補助金の見込んでなかったものが入ってきたとかいうもろもろで乖離が出たということなんですけど、保険料の増加分の1号被保険者の対象者が増えたっていうのは、そんなにここに反映するほどの人口の増が見込んだのか、大体年齢が65歳に来年度になる人って分かるわけやんか。平群町の中で64歳の方がどれぐらいになって、来年度はこんだけ上がってくるというのは分かるわけやから、そこら辺、もうちょっと正確に見積もる、ほんまに全く情報としてない部分で入ってきたっていう部分は仕方がないにしてもね。ある程度見込める分については、正確に見込んでいただきたいなというふうに思うんです。それは今後ちゃんとやっていただきたいというふうに思います。

以上です。

○委員長（岩崎真滋）

ほかに。馬本委員。

○委員（馬本隆夫）

ちょっと聞かせてください。この特別委員会提出資料追加1ページ、介護保険滞納者が33件、金額にしたら137万9,200円、これ、令和5年度末ということやけど、この33人の中で不納欠損の人は何人いたはって、まずそれから聞かせて。

それともう一つ、誓約書ね、分納誓約しますと。誓約を取って不納欠損を回避されてる方が何人いてはんの、これ。

○委員長（岩崎真滋）

藤井福祉課主幹。

○福祉課主幹（藤井純郎）

委員の質問にお答えさせていただきます。

まず、前年度、5年度で不納欠損した方については4人の方がいらっしゃいます。金額につきましては12万2,600円を不納欠損しております。

次に、分納誓約を取った方なんですけども、前年度については7名の方の分納誓約を取っております。

以上です。

○委員長（岩崎真滋）

馬本委員。

○委員（馬本隆夫）

もう1回言うて。不納欠損は4人、ほんで分納誓約が7人、これ、33人いはんねやろう。ほんなら、あとの人はどういう関係の人、その1年と単年度とその年度と次の年度の滞納者という意味か、それを言うて。

○委員長（岩崎真滋）

藤井福祉課主幹。

○福祉課主幹（藤井純郎）

まず、令和5年度の対象者の方が27名、現年の滞納の方が27名いらっしゃいますので、それ以外の方については6名がいらっしゃるという形になります。

以上です。

○委員（馬本隆夫）

それ以外は。

○福祉課主幹（藤井純郎）

4年度につきましては11名、3年度につきましては4名、またそれ以上の古い方については2名という形でいらっしゃいます。

以上です。

○委員長（岩崎真滋）

馬本委員。

○委員（馬本隆夫）

この過年度っていうたら不納欠損と違うの。要するに4と5がね、今言うてるように、普通、過年度分をお支払いしますよと。ほんで、次の3年度、4年

度については分納誓約しますよという誓約をされてる方、せやから、その人は実質上で僕が聞いているのは、4年、5年以外に分納誓約もしてないと、3年とか2年とか不納欠損された方は4人ということでええのか。その言うてる数字やったらちょっと合うてけえへんで。

○委員長（岩崎真滋）

藤井福祉課主幹。

○福祉課主幹（藤井純郎）

委員お述べの3年以前の分の方については、分納誓約を頂いております。5年度に不納欠損した方については分納誓約を頂いてなくて、また預金調査等をさせていただいて所得のない方、また亡くなってる方を不納欠損したという形になります。時効等で不納欠損した形になります。

○委員長（岩崎真滋）

馬本委員。

○委員（馬本隆夫）

ちょっと藤井君、聞くけども、1年、2年、例えば滞納してたと。分納誓約もしてたと。その人は1割負担の人とか2割負担、3割負担の人がいてはるわな。そんな人はペナルティーはないんか。まず聞かせて。分納誓約して2年以上な、滞納がある人ですよ。

○委員長（岩崎真滋）

藤井福祉課主幹。

○福祉課主幹（藤井純郎）

まず、分納誓約等をしておられない方についてのペナルティーという形で、基本的には納期を過ぎますと督促・催告を行いまして、延滞金等を徴収させていただきます。その次に、1年以上の滞納がありますと、給付サービスを受けられる方については、自己負担につきましては一旦サービスを全額負担するという形になります。また、1年6か月を過ぎますと、利用サービス費の自己負担額については差止めという形になります。また、委員おっしゃったように、2年以上滞納されて不納欠損された方につきましては、基本的に負担割合1割の方は3割になるとか給付制限を受ける形になります。

以上です。

○委員長（岩崎真滋）

馬本委員。

○委員（馬本隆夫）

これ、何が言いたいかって言うたら、やっぱり高齢化されたらね、いつ誰が介護保険の利用をする立場になるか分からへん。国保とまた違うんやな、これ

な。せやから、滞納額が少ないねん。いろいろね、そういう点は介護保険の関係の人には必ずそういうことをいろいろ指導もしてもらうと思うけども、まだ不納欠損してはって、これが4人いてはるわけやん。この人らが今度利用しようというたら大変やで、これ。例えばな。そのときに今言うてるように、さっきの住宅資金じゃないけども、分納誓約をさせてもらいますとか言うたらな、不納欠損の2年の時効が止まるわけやろう。ほんなら1割は1割でいける、初めは払うてたって後でまたそんだけの分を返してもらえるわけやんか。そういう対応もしてもらえんねや。そやからね、やっぱりきちとな、たくさんの65歳以上の方がおいでになるんやから、そういう方には常にこういうことがありますよ、こういうこともありますよってということを知らせてほしいなというふうに思うねんけどな。僕に言わせたら、使われへんかったら犠牲者やで、これ。介護保険料だけ今まで払うてきてやで、2号保険も払うてきて、今度は1号保険になって、何かの事情でいろいろあって財政的な問題でね、利用できへんようになったとか。こんなペナルティーをもうて1割が3割になったとか、3割が4割になったとか、自己負担がね。また、今度はそれ以上したけども、そのときは10割全部払うてくださいよと、後で精算しますって。こんなね、僕は知らない人もたくさんいてはると思うねん。33人いてはるということやからな。せやから、そこら辺の啓発やな。きちとしたってくれへんか、ほんまにちょっと真剣に。

○委員長（岩崎真滋）

浅井福祉課長。

○福祉課長

貴重な御意見ありがとうございます。一応、当初の納付通知で7月のときにパンフレットを入れさせていただいてるんですが、高齢者ということもあり、そこまで中身を全て網羅されてるということはないと感じております。督促でありますとか、送らせていただくときに、うちのほうでも例えば紙の色を変えて目につきやすいようにとかっていうのを工夫しながら、個々なるべく連絡が取れるようにして啓発してまいりたいと思っております。

○委員長（岩崎真滋）

馬本委員。

○委員（馬本隆夫）

ひとつそういうことな、皆利用できるように。個人負担が1割とか2割、3割で利用できるような住民であるように啓発をちゃんとしてな。よろしゅうお願いします。それで結構です。

○委員長（岩崎真滋）

森田委員。

○委員（森田 勝）

先ほど延滞金という表現をされたんですけども、それは滞納額プラス、率か何かでかかるということですか。それですね、この未収なり、不納欠損にはそういう延滞金が入ってるんですか。

○委員長（岩崎真滋）

藤井福祉課主幹。

○福祉課主幹（藤井純郎）

延滞金等につきましては、税法等に基づきまして、滞納の時期に応じて延滞金が計算して入ってくるという形になります。

以上です。

○委員長（岩崎真滋）

森田委員。

○委員（森田 勝）

いや、率が決まってるんじゃないですか。決まってないんですか。

○委員長（岩崎真滋）

藤井福祉課主幹。

○福祉課主幹（藤井純郎）

率については決まっております。

○委員長（岩崎真滋）

藤井福祉課主幹。

○福祉課主幹（藤井純郎）

滞納額には入ってるという形になります。

○委員長（岩崎真滋）

藤井福祉課主幹。

○福祉課主幹（藤井純郎）

今ちょっと手元のほうに数字、率は入ってないんですけども、税法に基づいて決まっております。

○委員長（岩崎真滋）

委員外から山口議長。

○議長（山口昌亮）

さっきの植田委員の質問の答弁でね、8期の総括、本当なら9期をつくる時にしてるんだけど、ただ8期が終わる前に9期をつくるもんだから、当然乖離が出てくるわけですよ。いつも思うんですが、8期については計画に対して九十六、七ぐらいまでいってるから、まだそんな大きな乖離は出てないんです。

にもかかわらず3億円の取崩しで保険料を引き下げることになったのが、1億3,000万円で済んだと。ほんで1億7,000万円残ったやつを9期で1億7,000万円を崩す。これもね、8期のときに何て説明しましたか。8期のときは当時、途中の時点で4億3,000万円か4億4,000万円の基金が残ると。ほんで3億円を取り崩して、残った1億二、三千万円のうち1億円ぐらいは9期で取り崩すと、こういう話やった。だから、9期の計画では基金はほとんど残らない計画になる予定やったのに、いざとなってくるとまた余らせると。これは同じ繰り返しをやってるんですよ。だから、何が言いたいかというと、きちっと8期の決算が出てから、きちっと検証してね、どこが違うかっていうのをやっぱりしっかり出すべきなんですよ。また、同じことをやるんです。結局、高い高いでいくんですよ。本来3年間でゼロにせなあかん。それはきちっとならんから、ちょっとは残したいという気持ちは運営する側には分かるから、そこまで言わないけども、そこはね、やっぱりもう1回言いますけども、今日はいいですけど、きちっと出してください、その総括を。特に8期全体の。それをするためには、昨年度だけでも開きがあるわけやから、その辺をしっかりと見ていく必要があると思うんで、ちょっと1回出してもらってどこかで、別に急ぎませんが、12月議会でもいいですけど、介護保険の8期はどうやったかという結果をね、原課として出したやつをきちっと議会にも示してもらえればなと思うんですが、その点どうですか、示せますか。

○委員長（岩崎真滋）

藤井福祉課主幹。

○福祉課主幹（藤井純郎）

議員お述べのとおり、8期の総括、また乖離の状況等について、議会のほうに報告、あと運協のほうにも報告させていただきたいと思っております。

以上です。

○委員長（岩崎真滋）

ほかにございませんか。

「なし」の声あり

○委員長（岩崎真滋）

ないようでしたら、本案に対する質疑を終結いたします。

続いて、これより討論に入ります。

「なし」の声あり

○委員長（岩崎真滋）

ないようでしたら、本案に対する討論を終結いたします。

これより認定第6号について採決を行います。

本決算については認定することにいたしたいと思いますが、異議ございませんか。

「異議なし」の声あり

○委員長（岩崎真滋）

異議なしと認めます。よって、認定第6号 令和5年度平群町介護保険特別会計歳入歳出決算の認定については認定すべきものと決定されました。

ここで説明員が入れ替わりますので、しばらくお待ち願います。

説明員交代

○委員長（岩崎真滋）

続きまして、認定第7号 令和5年度平群町奨学資金貸付事業特別会計歳入歳出決算の認定についてを議題とします。

初日の本会議において議案の説明を受けておりますので、説明は省略させていただきます。

これより本案に対する質疑に入ります。ございませんか。

「なし」の声あり

○委員長（岩崎真滋）

ないようでしたら、本案に対する質疑を終結いたします。

続いて、これより討論に入ります。

「なし」の声あり

○委員長（岩崎真滋）

ないようでしたら、本案に対する討論を終結いたします。

これより認定第7号について採決を行います。

本決算については認定することにいたしたいと思いますが、異議ございませんか。

んか。

「異議なし」の声あり

○委員長（岩崎真滋）

異議なしと認めます。よって、認定第7号 令和5年度平群町奨学資金貸付事業特別会計歳入歳出決算の認定については認定すべきものと決定されました。ここで説明員が入れ替わりますので、しばらくお待ち願います。

説明員交代

○委員長（岩崎真滋）

続きまして、認定第8号 令和5年度平群町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定についてを議題とします。

初日の本会議において議案の説明を受けておりますので、説明は省略させていただきます。

これより本案に対する質疑に入ります。森田委員。

○委員（森田 勝）

323ページの未収額ですね、9万7,600円と計上されてるんですけども、説明資料で追加資料の1ページの金額がちょっと合わないんじゃないかなと思うんですけども、何か原因してるんでしょうか。

○委員長（岩崎真滋）

藤澤健康保険課主幹。

○健康保険課主幹（藤澤愛香）

未収金の件についてお答えさせていただきます。

こちらについては、還付未済額が年度末においてございまして、未収金額と還付未済額との差額がございまして、一致しないような形での御報告になっております。

以上です。

○委員長（岩崎真滋）

森田委員。

○委員（森田 勝）

それはちょっとおかしい。決算でお金をもらってないのは幾らなんですか。

それともう一つね、なんか先ほど滞納したときにお金を払わないといけない、ちょっと名前を忘れたんですけども、それもあるんでしょうか、これも。

○委員長（岩崎真滋）

東川健康保険課長。

○健康保険課長

今の答えなんですけれども、延滞金のことをおっしゃってるのかと思うんですが、この未収の中には延滞金は含まれておりません。延滞金はもちろん滞納額が発生することにより、月日を経過することによって、税率をもって経過した分に対して賦課される。何ていうんですか、経過した分に対しての罰則というか、それにかかる金額になってきますので、この税に対しての収納で未収というところには入ってこないです。別途、収入、延滞金というもので掲載されております。

○委員長（岩崎真滋）

森田委員。

○委員（森田 勝）

延滞金はどのようになっているんでしょうか、利率が分かれば。延滞金はいかかるんですか、まずかからないんですか。かかるのであれば、どれだけの率なのか。

○委員長（岩崎真滋）

藤澤健康保険課主幹。

○健康保険課主幹（藤澤愛香）

御質問にお答えさせていただきます。

まず、保険料についてなんですけど、延滞金は法定で掛けさせていただいて、滞納の時期に応じて頂戴するような形を取っております。御質問の率についてなんですけれども、滞納されてから1か月までについては2.4%、1か月以降につきましては8.7%の法定の利率がかかっております。

以上です。

○委員長（岩崎真滋）

森田委員。

○委員（森田 勝）

町長ね、滞納の延滞金等についてですね、町全体で統一的なことをやっておられないのではないかなと私は思うんですよね。片一方では、延滞金はもらうべきお金じゃないですか。未収じゃないですか、私はそう思うんですけれども、一般的にいうたら売掛金に相当するものじゃないですか、民間でいうと。と思いますので、一度調べていただきたいと。そういう書き方、その表現がいいかどうかも含めてですね。

○委員長（岩崎真滋）

町長。

○町長

森田委員の質問に答えさせていただきます。

延滞金というのは、滞納されて納付されるときに、そのときに期間に応じて発生してくるんで、その時点で幾ら発生してるかというのは確定できないんで、あくまでも納められるときに期間に応じて、法定の利率を掛けて納付するということになります。

○委員長（岩崎真滋）

森田委員。

○委員（森田 勝）

普通であれば、年度末までの延滞金を加算すべきだというふうに思うんですけどもね、それは公会計のほうでどうなってるかちょっと分かりませんが。そうすると、延滞金の収入はどこに上がってるんですか、この決算で。

○委員長（岩崎真滋）

町長。

○町長

決算書を見てもらったらいいですけども、後期高齢の場合は、延滞金収入という形で328、329ページのところに延滞金という形で、今年度は3,600円を徴収しております。

○委員長（岩崎真滋）

ほかにございませんか。

「なし」の声あり

○委員長（岩崎真滋）

ないようでしたら、本案に対する質疑を終結いたします。
続いて、これより討論に入ります。

「なし」の声あり

○委員長（岩崎真滋）

ないようでしたら、本案に対する討論を終結いたします。
これより認定第8号について採決を行います。
本決算については認定することにいたしたいと思いますが、異議ございませんか。

「異議なし」の声あり

○委員長（岩崎真滋）

異議なしと認めます。よって、認定第8号 令和5年度平群町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定については認定すべきものと決定されました。

ここで説明員が入れ替わりますので、しばらくお待ち願います。

説明員交代

○委員長（岩崎真滋）

続きまして、認定第9号 令和5年度平群町用地先行取得事業特別会計歳入歳出決算の認定についてを議題とします。

初日の本会議において議案の説明を受けておりますので、説明は省略させていただきます。

これより本案に対する質疑に入ります。

「なし」の声あり

○委員長（岩崎真滋）

ないようでしたら、本案に対する質疑を終結します。

続いて、これより討論に入ります。

「なし」の声あり

○委員長（岩崎真滋）

ないようでしたら、本案に対する討論を終結いたします。

これより認定第9号について採決を行います。

本決算については認定することにいたしたいと思いますが、異議ございませんか。

「異議なし」の声あり

○委員長（岩崎真滋）

異議なしと認めます。よって、認定第9号 令和5年度平群町用地先行取得

事業特別会計歳入歳出決算の認定については認定すべきものと決定されました。

午前 11 時 30 分まで休憩いたします。

(ブー)

休 憩 (午前 11 時 17 分)

再 開 (午前 11 時 30 分)

○委員長 (岩崎真滋)

休憩前に引き続き再開いたします。

(ブー)

○委員長 (岩崎真滋)

続きまして、認定第 10 号 令和 5 年度平群町水道事業会計決算の認定についてを議題とします。

初日の本会議において議案の説明を受けておりますので、説明は省略させていただきます。

これより本案に対する質疑に入ります。

「なし」の声あり

○委員長 (岩崎真滋)

ないようでしたら、本案に対する質疑を終結いたします。

続いて、これより討論に入ります。

「なし」の声あり

○委員長 (岩崎真滋)

ないようでしたら、本案に対する討論を終結いたします。

これより認定第 10 号について採決を行います。

本決算については認定することにいたしたいと思いますが、異議ございませんか。

「異議なし」の声あり

○委員長 (岩崎真滋)

異議なしと認めます。よって、認定第 10 号 令和 5 年度平群町水道事業会

計決算の認定については認定すべきものと決定されました。

続きまして、認定第11号 令和5年度平群町下水道事業会計決算の認定についてを議題といたします。

初日の本会議において議案の説明を受けておりますので、説明は省略させていただきます。

まず、上下水道課長より発言を求められていますので、発言を許可いたします。上下水道課長。

○上下水道課長

貴重なお時間を頂戴いたしまして、ありがとうございます。2点ございます。内容は本会議の答弁の訂正と昨日の決算審査特別委員会の答弁でございます。

1点目です。議会初日の議案第44号 令和6年度平群町下水道事業会計補正予算の説明中、マンホールポンプの耐用年数を「15年」と説明いたしましたが、正しくは「20年」に訂正でございます。理由は、総務省通知の中で、地方公営企業法におけるポンプ設備の耐用年数は20年とされているためです。

2点目は、下水道企業会計の繰出金の法的根拠についてでございます。こちらは地方公営企業法の規定によるものです。

以上となります。どうも申し訳ございませんでした。

○委員長（岩崎真滋）

これより本案に対する質疑に入ります。山田委員。

○委員（山田仁樹）

1点だけ。下水道の今後の方向性っていうんですか。昨日も住生のほうにも質問したんですけど、これまでコミプラの接続を行いながらですね、接続率を上げてきた経緯があると思うんですけど、あと残ってるのが緑ヶ丘の1施設といろいろな制約等もあって、あと北信貴ヶ丘と。緑ヶ丘はおよそ250トンが接続される、あとコミプラの接続については予定はされていると思うんですけど、下水道事業自体がですね、十数年前には、もう大分古いことで忘れたんですけど、九州のある自治体では個別浄化でいくんだと、下水道事業自体が大変町の財政も圧迫するというので、そういう方針の下にですね、国からお叱りというか、指導を受けられたという経緯もニュースで耳にしたこともあるんです。下水道会計自体は接続率を上げていかないといけない、目標になると思うんですが、一方で下水道の敷設工事をするとすると、起債がちょっと忘れましたが95%ぐらいで、交付税算入が半分ぐらいでということ、町単費が目先としては少なくなるんですが、償還もしていかなければならないということ、大変悩ましい部分であると思うんです。取りあえずコミプラの接続を、緑ヶ丘はいろいろ雨水流入の問題もあってスムーズにいかなかったんですが、そのこと

を終わったとしたときにですね、今後個別の接続も含めて行っていくためには敷設管の工事を進めていく、計画を進めていくことになってくるかなと思うんですが、現在の今後の考え方としてはどのようになってるのでしょうか。

○委員長（岩崎真滋）

北村上下水道課主幹。

○上下水道課主幹（北村隆行）

お答えいたします。

今後ですね、財政状況、管渠の老朽化などの現状分析をして、その上で下水道事業を進めていきたいと考えております。

○委員長（岩崎真滋）

山田委員。

○委員（山田仁樹）

もちろん財政状況を見ながらというのが当たり前なんですけど、今は方向性は全然ないんですけど、方向性も含めて今はまだ白紙の状態ということですか。今後の検討課題ということですか。

○委員長（岩崎真滋）

田中上下水道課長。

○上下水道課長

失礼します。ちょっと補足のほうをさせていただきます。

確かに、事業会計としてはなかなか芳しくないというのは事実でございます。今後やはり接続率については上げていく必要があるというふうには考えております。新しく管渠をどうするかという部分につきましては、今のところまだ白紙の部分が多くて、こうします、ああしますというようなお答えができない状態であるということでございます。非常に申し訳ない話にはなるんですけども、そういうお答えになります。先ほど主幹からも答弁しましたとおり、今後はまず現状の分析ですね、経営環境なり、施設の状況なり、老朽化なりの分析をした中で、今後どうするかということを検討してまいりたいというふうなことでございます。

以上です。

○委員長（岩崎真滋）

山田委員。

○委員（山田仁樹）

事業を行うためには事業認可等、いろいろな手続も必要なんですけど、それも含めて見直すという、見直しも含めて検討するということでいいんですか。

○委員長（岩崎真滋）

田中上下水道課長。

○上下水道課長

はい、その考え方で結構でございます。

○委員長（岩崎真滋）

委員外から発言、山口議長。

○議長（山口昌亮）

調査は初香台と福貴団地はしてあるわけやんか。事業はいろいろあって遅れてるというか、やってないけども、計画としてはそんなん10年以上前からあってやね、それはいつほごにしたのよ、そんな話聞いてへんし。ただ、財政が今は大変で下水には金かかるから、公共下水道を引くのにね、本管を引くのに金がかかるから、だから延びてるだけでやね、コミプラのところが基本的に終わったら、そっから後は取りかかるっていうのがこれまでの姿勢やで。今の話やったら全く違うやんか。町長、今の課長の答弁で、全く見込みも何も今んとこ、当面全くする気がないということなのかどうか。そこはこれまでの方針と全く違うことを答えてるわけやから、そこはちゃんと整合性を取ってもらわないと。

○委員長（岩崎真滋）

植田副町長。

○副町長

今、御指摘ありました件ですけども、現時点では他の事業もありますので、そういったことの優先順位を見る中で先送りせざるを得ないという、これまでもそのようなことは申し上げてきたかなというふうに思うんです。今議員の御指摘の認可区域の未供用の地域をどうしていくかという、そういう御質問かなというふうに思います。その中で既に委託業務を発注したのが、福貴団地、初香台のその辺のところについては発注してるということでございます。認可区域についてはね、私の今持っている情報では、初香台、福貴団地、それ以外に吉新の一部の地域もありますし、あと上庄台、御陵苑、下垣内、非常に多岐にわたっているということでございます。このことにつきましては、認可区域の見直しも含めまして慎重に検討する必要があるかというふうに思いますので、そのことについては、下水道の担当部局のほうに指示をしておるという状況でございます。場合によっては、合併槽の方針転換ということも含めまして検討せざるを得ないと。もちろんそういったことにつきましては、しかるべきタイミングで議会のほうにも相談をさせていただきますし、決して勝手にするとか勝手に決めたとかいうことではございませんので、その辺のところ御理解いただきたいなというふうに思います。

○委員長（岩崎真滋）

ほかに。馬本委員。

○委員（馬本隆夫）

結局、処理区域の面積は203.9ヘクタールやな。そういうことやろう。まずそれから。今、認可区域を予定してる、22ページのこれを見てください。監査委員さんの報告書かな、これ。あるやろう、22ページ。まず、それを見てんねけど、それでよろしいですか。

○委員長（岩崎真滋）

北村上下水道課主幹。

○上下水道課主幹（北村隆行）

そのとおりでございます。

○委員長（岩崎真滋）

馬本委員。

○委員（馬本隆夫）

その203ヘクタールを予定していると、計画区域があるねんと。その中で60.4%が今できてんと。けれども、接続する分については、水洗化率については94.7%やと。ということは5.3%はまだ接続してないよという、まずそれからの認識でいきたいねけど、そんでええのか。

○委員長（岩崎真滋）

北村上下水道課主幹。

○上下水道課主幹（北村隆行）

はい、そのとおりでございます。

○委員長（岩崎真滋）

馬本委員。

○委員（馬本隆夫）

あのね、副町長も言うてはるように、議会を軽視してな、203ヘクタールの見直しについてな、しはらへんというふうに私は思うわ。副町長言わはったようにな。けれどもさ、今度、気をつけやなあかんのは、水道が県の企業会計で県へ一体化してしまうわな。けれども、初香台にしろ、福貴団地にしろね、どこにしろね、水道を動かさんなんやん。その単価は知りませんで。平群町の単価が幾らかどうか知らんねけど、そういう事業もかかってくるわな。

今、山口君が言うたように、前に調査されて一定の金額は大体出てるっていうことをここで言わはったんや。それから思うたら、また上がってる可能性もあるわな。そういうこともいろんなを踏まえてね、町の実態も踏まえながら、うちら下水道事業特別委員会があるやんか。そこへ担当者からね、ちょっと委員長・副委員長に御相談されているんなことを、現状の実態とかね、まずその

委員会へ報告されて、議長を通じて委員会を招集していただきたいとか、そういうことをしていただいたらどうですか。ここでいろいろ言うたって、しゃあないやん。特別委員会の委員長は誰か知らんで、俺は見てないから。委員長・副委員長は誰か知らんけども、そういう対応をされたらどうですか。上庄台もあるってことやから、吉新の一部、三里とか言うたんやから、その点どうやの。俺、提案してんねんで。

○委員長（岩崎真滋）

西岡事業部長。

○事業部長

特別委員会に諮ったらどうやということで、御意見いただきました。町のほうも一旦整理させていただいた上で、また御相談させていただいて委員会の開催のほうをさせていただきたいと思います。

○委員長（岩崎真滋）

馬本委員。

○委員（馬本隆夫）

いや、そんな早急な話と違うと思うけども、今言うたように緑ヶ丘も今年、6年度で終わるからな、一定コミプラは終わるから。今、山口君が言うたように、福貴団地とか初香台、そっちのほうへ来るのが本意と違うかという予定をしてたからな、その点も踏まえながら、ちょっと委員長に言うて、議長に言うて、委員会を開催してもらうようにしてください。お願いしますわ。そういうことでよろしゅう頼みます。

○委員長（岩崎真滋）

ほかにございせんか。

「なし」の声あり

○委員長（岩崎真滋）

ないようでしたら、本案に対する質疑を終結いたします。

続いて、これより討論に入ります。

「なし」の声あり

○委員長（岩崎真滋）

ないようでしたら、本案に対する討論を終結いたします。

これより認定第11号について採決を行います。

本決算については認定することにいたしたいと思いますが、異議ございませんか。

「異議なし」の声あり

○委員長（岩崎真滋）

異議なしと認めます。よって、認定第11号 令和5年度平群町下水道事業会計決算の認定については認定すべきものと決定されました。

以上で当委員会に付託を受けました議案の審査は全て終了いたしました。

町長、閉会に当たりまして御挨拶をお願いします。町長。

○町長

それでは、閉会に当たりまして、一言御挨拶申し上げます。

決算審査特別委員会の委員の皆様には、令和5年度の一般会計、各特別会計、事業会計につきまして、2日間にわたり慎重審査いただき、11議案全て認定を頂きありがとうございました。定例会本会議におきましても認定を賜りますようお願い申し上げまして、閉会の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

○委員長（岩崎真滋）

長時間、慎重審査いただきましてありがとうございました。

本日の委員会はこれをもって閉会いたします。

（ブー）

閉 会 （午前11時46分）